

## V. 稲城市の色彩のルールの考え方

## (2) 対象区分①の色彩

&gt;&gt;&gt;三沢川左岸丘陵地、三沢川右岸丘陵地

&gt;&gt;&gt;中高層建築物



## 色彩景観の現況

- ・向陽台、長峰、若葉台などのニュータウンの中高層住宅群はY(黄)、Y R(黄赤)系のあたたかみのある色相が中心で、それぞれにまとまりのある住宅地となっています。また、比較的新しい建物になると、明度を抑えた濃い茶系の色彩の建物も見られます。
- ・従来から立地している施設の中には白(オフホワイト)系の色調を使用しているものが見られます。その中の一部には、経年変化に伴う汚れや退色などが目立つものもあります。
- ・長大な壁面をもつ中高層マンション等においては、建物の表情に変化を付けるためにベランダやフレームなどの部位に、アクセントとなる色を効果的に使用しているものが見られます。

## 色彩誘導の考え方

- ・外壁基調色は、周囲を緑に包まれた丘陵地に違和感を与えない低彩度の控えめな色彩を基調とし、自然景観にとけ込む穏やかな暖色系の色相とします。また、自然景観から突出して見え、光の影響を受けやすい極端に明度の高い(白い)色調の使用を避けるようにします。
- ・外壁強調色は、目立つ高彩度の使用を避けて、周囲のまち並みに調和しつつ、建築物に表情を与えることが可能となる中彩度程度までの色彩とします。また、後背の自然景観との調和を図るため、中遠景から目につきやすい中～高層部への使用をできる限り避けるようにします。
- ・屋根面については、起伏に富んだ地形により、多くの場所から眺望することが可能なため、周囲のまち並みに配慮しつつ背景となる緑から突出しない、中明度、低彩度までの色彩とします。

【色彩誘導のイメージ】：あたたかみのある茶系の低彩度色の配色により、緑豊かな自然景観との調和を図ります。

## 【誘導前】



## 【誘導後】



色彩の範囲



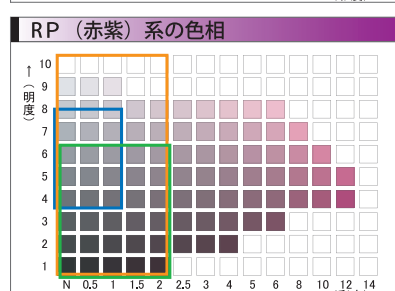
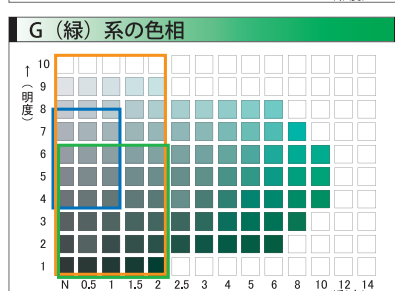
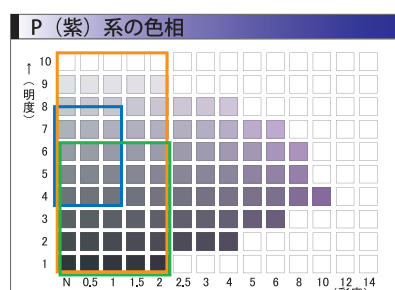
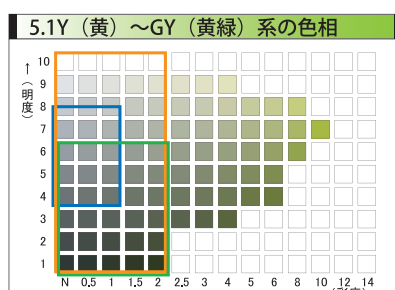
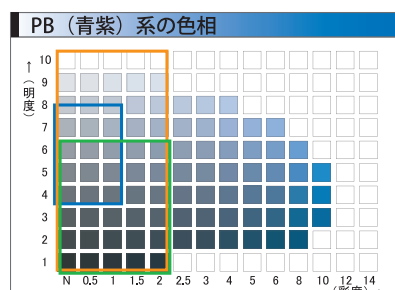
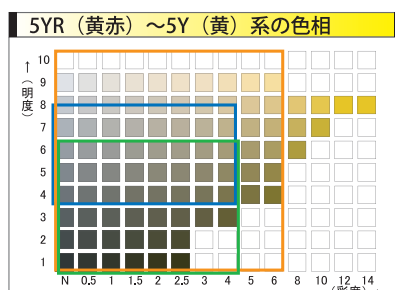
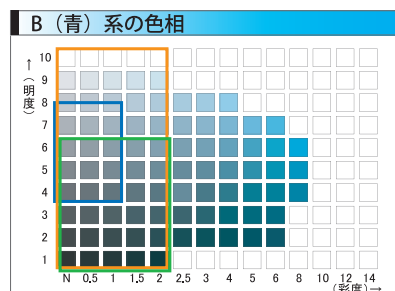
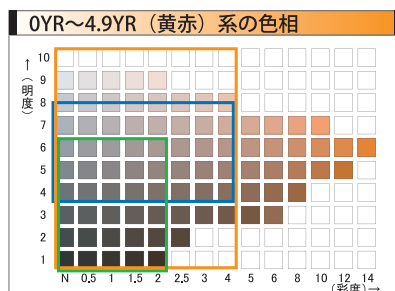
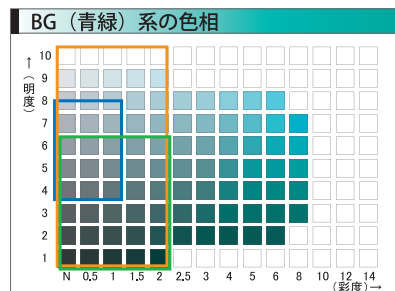
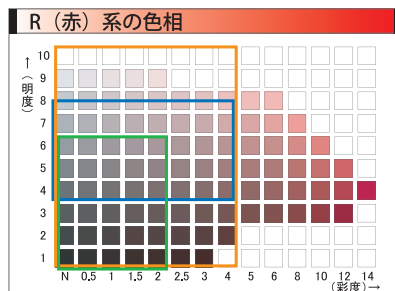
対象地域

三沢川左岸丘陵地  
三沢川右岸丘陵地

対象規模

高さ10m以上または  
延べ面積1,000㎡以上の建築物

ルールの適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~5.0Y	4以上8.5未満	4以下
	その他		1以下
外壁強調色	0R~4.9YR	-	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		2以下
屋根色	5.0YR~5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下



凡例

- 外壁基調色の色彩の範囲  
(外壁各面の4/5以上はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の色彩の範囲  
(外壁各面の1/5以下で使用可能)
- 屋根色の色彩の範囲

※色票は基本的に各色相の中央色のみを示しています。

※色票の中央に使用可能範囲の境界線があるものについてはその値の「0.5」を示しています。

例えば下記の場合は

8   8.5未満となります。

## V. 稲城市の色彩のルールの考え方

## (3) 対象区分②の色彩

&gt;&gt;&gt;既成市街地、平尾地域

&gt;&gt;&gt;中高層建築物



## 色彩景観の現況

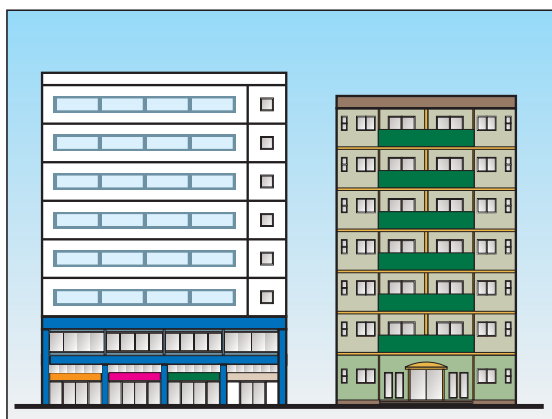
- ・川崎街道をはじめとする幹線道路沿道を中心に中高層住宅や業務商業ビルが立地しています。外壁基調色については、暖色系の色相が中心で、やや明るめの低彩度の色彩となっています。
- ・中高建築物等の一部では、低層部と中高層部の色の塗りわけや使用部位に応じた配色がなされ、長大な壁面に表情を与えています。
- ・棟数も多く周辺に与える影響が大きい平尾住宅の集合住宅群では、Y R (黄赤) 系の低彩度でやや明るめの淡いベージュ色が使用されているため、ボリューム感が軽減されています。

## 色彩誘導の考え方

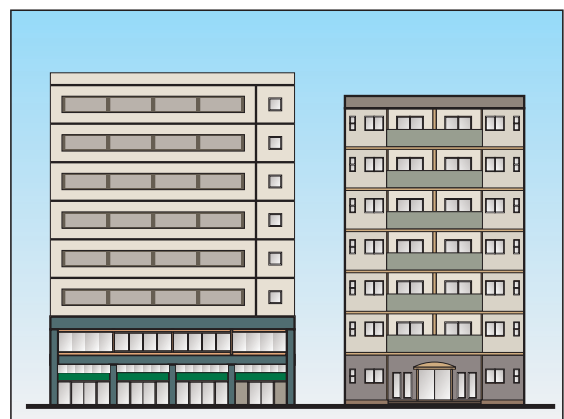
- ・周囲のまち並み景観と調和した色彩を基本とします。また、背景となる丘陵地に違和感を与えない低～中彩度程度の控えめな色彩を基調とし、自然景観から突出して見え、光の影響を受けやすい極端に明度の高い(白い)色調の使用を避けるようにします。
- ・外壁強調色は、目立つ高彩度の使用を避けて、周囲のまち並みに調和しつつ、建築物に表情を与えることが可能となる中彩度程度までの色彩とします。また、背景の緑地景観との調和を図るため、高明度の色彩については、中遠景から目につきやすい高層部への使用をできる限り避けるようにします。
- ・長大な壁面により単調になりやすい商業施設などは、背景となる丘陵地に配慮しつつ、建物に表情を与える強調色やアクセント色を低層部等に用いることで、歩行空間ににぎわいを与えます。
- ・屋根面については、起伏に富んだ地形により、多くの場所から眺望することが可能なため、周囲のまち並みに配慮しつつ背景となる緑から突出しない、中明度、低彩度までの色彩とします。

【色彩誘導のイメージ】：落ち着いた暖色系の低中彩度の色彩とし、周囲のまち並みとの調和を図ります。

## 【誘導前】



## 【誘導後】



色彩の範囲



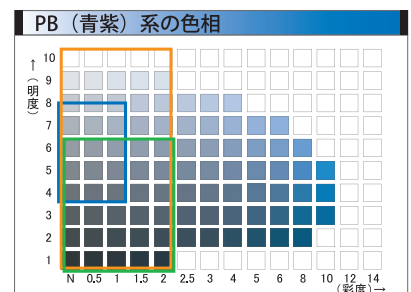
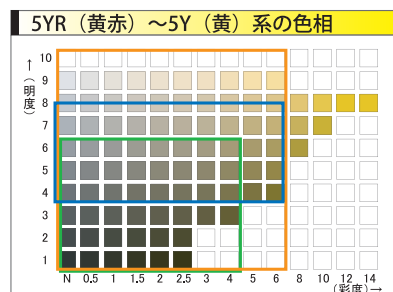
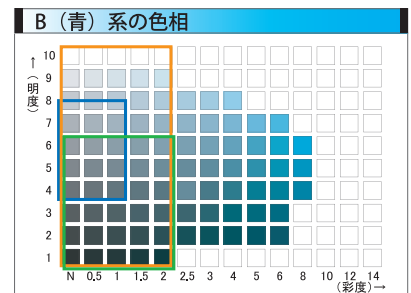
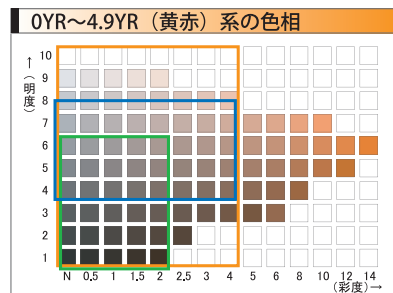
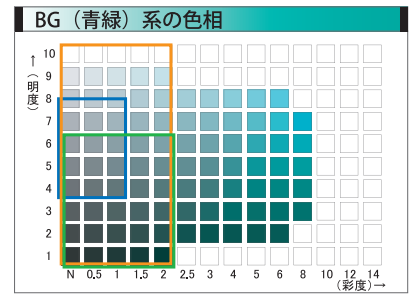
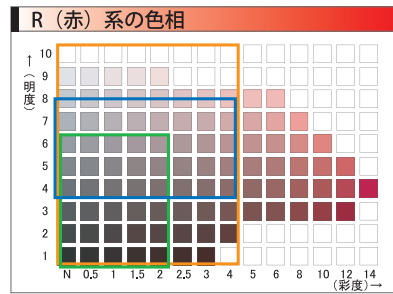
ルールの適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~4.9YR	4以上8.5未満	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		1以下
外壁強調色	0R~4.9YR	-	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		2以下
屋根色	5.0YR~5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下

対象地域

既成市街地  
平尾地域

対象規模

高さ10m以上または  
延べ面積1,000㎡以上の建築物



凡例

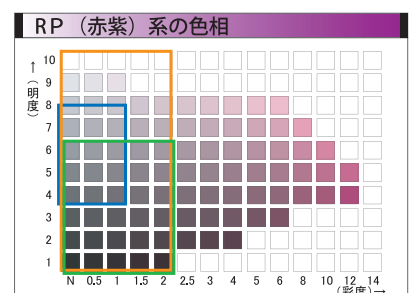
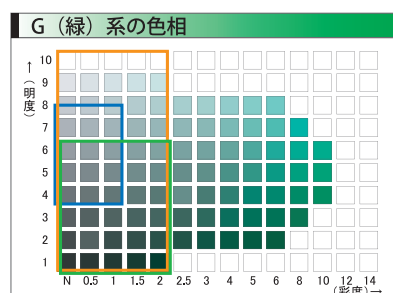
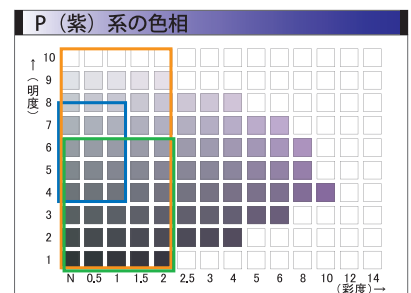
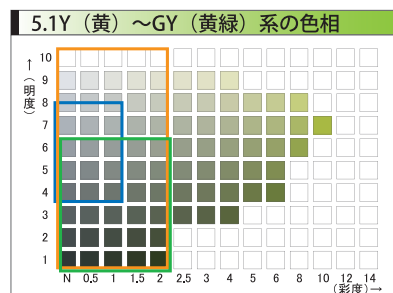
- 外壁基調色の色彩の範囲  
(外壁各面の4/5以上はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の色彩の範囲  
(外壁各面の1/5以下で使用可能)
- 屋根色の色彩の範囲

※色票は基本的に各色相の中央色のみを示しています。

※色票の中央に使用可能範囲の境界線があるものについてはその値の「0.5」を示しています。

例えば下記の場合は

8   8.5未満となります。



## V. 稲城市の色彩のルールの考え方

## (4) 対象区分③の色彩

&gt;&gt;&gt; 既成市街地、三沢川左岸丘陵地、三沢川右岸丘陵地、平尾地域

&gt;&gt;&gt; 低層建築物(小規模)



## 色彩景観の現況

- ・市内の低層建築物は住居系が中心となっています。一部の沿道や多摩川周辺などを中心に業務商業、工業系などの建物も見られます。
- ・外壁基調色の色相は暖色系が中心となっています。一方で、規模の大きいものと比較すると、寒色系などの色彩も使用されています。
- ・彩度は基本的に低～中彩度となっていますが、一部の住宅や店舗、工場などで周辺になじまない高彩度色が使用されています。また、一部の住宅地ではやや明るめのパステルカラーの色調のものも見られます。
- ・壁面の高彩度色の使用に対して建物のメリハリをつけるため、屋根色については、低明度色や濃いグレー系の瓦が数多く使用されています。また、一部では、周囲になじまない彩度が高い色彩のものも見られます。

## 色彩誘導の考え方

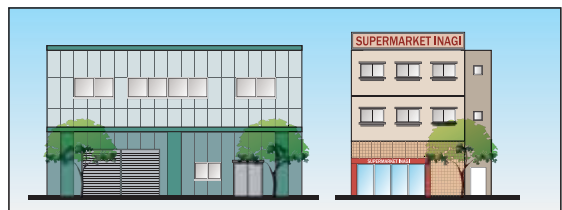
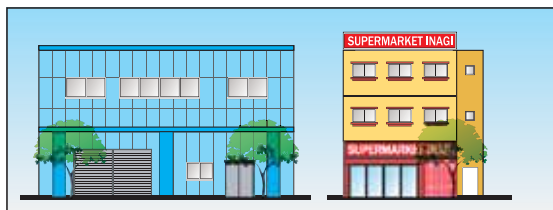
- ・住宅地や商業地など、それぞれの地域の景観特性を十分に把握し、周囲のまち並みと調和した色彩を基本とします。
- ・住宅地については、日常生活の場として飽きのこない色彩景観としていくとともに、落ち着いた住環境を維持していくため、暖色系の低～中彩度色までの色彩を基本とします。また、商業施設等については、周囲のまち並みに配慮しつつ、建物に表情を与える強調色やアクセント色を使用し、落ち着きのなかにもにぎわいのある色彩景観を誘導します。
- ・屋根面については、起伏に富んだ地形により、多くの場所から眺望することが可能なため、周囲のまち並みに配慮しつつ背景となる緑から突出しない、中明度、低彩度までの色彩とします。

【色彩誘導のイメージ】：周囲のまち並みに配慮しつつ、落ち着きのなかにも飽きのこない色彩景観とします。

## 【誘導前】



## 【誘導後】



色彩の範囲



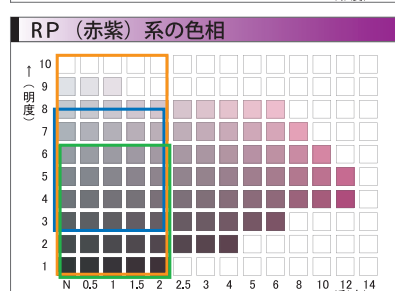
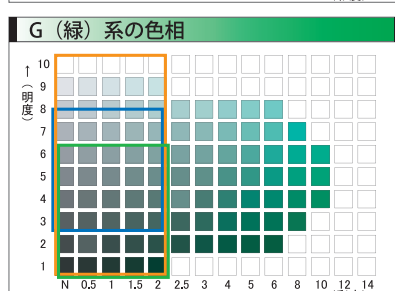
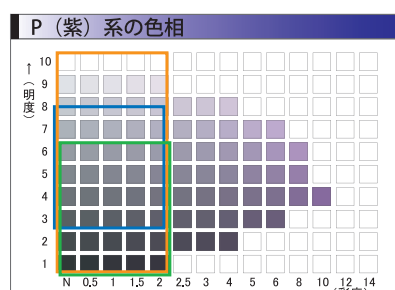
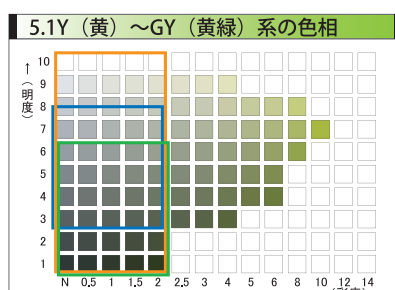
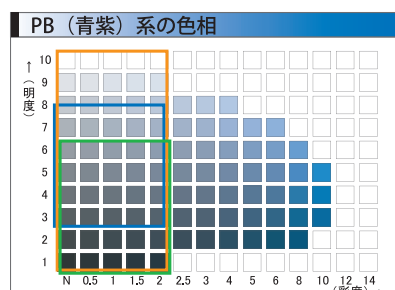
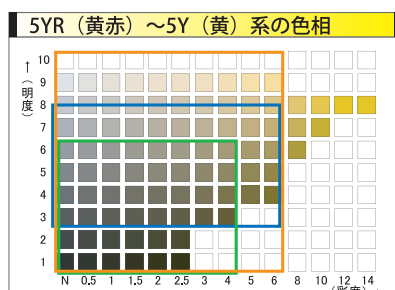
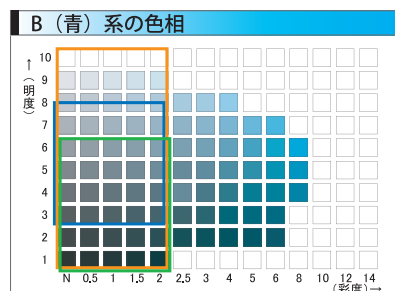
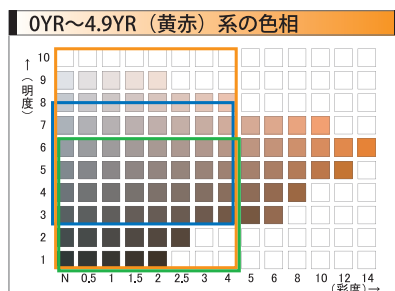
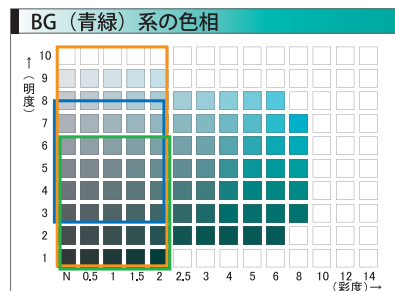
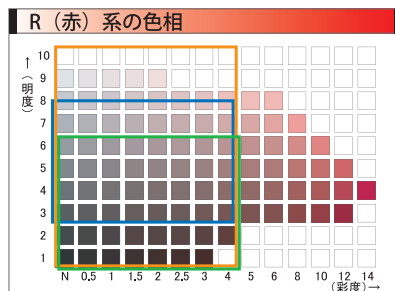
対象地域

- 既成市街地
- 三沢川左岸丘陵地
- 三沢川右岸丘陵地
- 平尾地域

対象規模

- 高さ10m未満かつ
- 延べ面積1,000㎡未満の建築物

ルールの適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~4.9YR	3以上8.5未満	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		2以下
外壁強調色	0R~4.9YR	—	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		2以下
屋根色	0R~5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下



凡例

- 外壁基調色の色彩の範囲  
(外壁各面の4/5以上はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の色彩の範囲  
(外壁各面の1/5以下で使用可能)
- 屋根色の色彩の範囲

※色票は基本的に各色相の中央色のみを示しています。

※色票の中央に使用可能範囲の境界線があるものについてはその値の「0.5」を示しています。

例えば下記の場合は

8   8.5未満となります。